

## 令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価（3月5日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程学習指導	○幼稚部から高等部にかけた系統立てた指導の実施により、社会で豊かに生きていくための基礎学力とコミュニケーション能力を身につける。	①カリキュラムマネジメントの推進と、実態把握に基づく個別教育計画の作成および実践により、幼児・児童・生徒の基礎学力やコミュニケーション能力の向上を図る。	①一人ひとりの実態把握や、より良い課題提示、習得の方法を検討し、個別教育計画に基づいた授業実践を行う。 他学部の研究授業や研究協議への参加を通して、学部間の系統性の理解を促進する。 幼稚部から高等部までの自立活動の系統的な指導実践を行うため、手話力、日本語指導力、聴能理解を高めるOJTを行う。	①実態把握や適切な課題設定を行い、個別教育計画に基づいた授業実践を行なつたか。 研究授業を行い、授業力向上を図れることができたか。また、他学部の研究授業や研究協議に参加し、学部間の系統性を整理することができたか。 手話力、日本語指導力、聴能理解を高めるOJTを行うことができたか。	①他学部体験週間の実施や研究授業、公開授業を行なつたか。 研究授業を行い、授業力向上を図れることができたか。また、他学部の研究授業や研究協議に参加し、学部間の系統性について意識を高めることができた。 自立活動の具体的な内容についての実態把握や課題の改善について、学部研究等の機会を通して情報を共有し、基礎学力やコミュニケーション能力の向上に向けた授業実践ができた。	①研究授業や公開授業等、互いに授業を見合うことのできる体制づくりを更に推進し、専門性を高め、授業力向上に努める必要がある。	①保護者アンケート肯定的評価 97.6% R5年度 96.8% <学校運営協議会> ・個別教育計画を保護者と一緒に作成しているのは良いこと。その場で話し合っていく取組が大事。 ・公開授業は大切なこと。	①6月と9月に他学部体験週間を設けた。学部を超えた授業実践の共有を通して授業改善や授業力の向上につなげるとともに、学部間の系統性について意識を高めることができた。 更に研究授業や公開授業等、互いの授業を見合い、高め合う意識の醸成を図ついくとともに、多様化する幼児・児童・生徒の実態把握や課題改善について取り組み方を検討していく必要がある。 個別教育計画に基づいた教育実践が更に充実するよう記入ガイドの見直しを推進した。 ②各学部で実態や学習状況に応じて、一人一台端末を活用することで、主体的な学びにつなげ、成果を上げてきている。導入した授業支援アプリやデジタル教科書の効果的な活用が更に求められる。	①他学部体験をはじめ、研究授業や公開授業等、新たな発見や気づきから、すぐにでも自分自身の授業改善につなげられる取組を継続していく。 個別教育計画の記入ガイドや授業等のねらいや内容を整理していくためのシラバスづくりや、ろう重複児童生徒の適正な教科用図書選定を推進する。 自立活動4つの柱の具体的な内容について、子どもたちの実態に応じた指導・支援のあり方を検討し実践していく。 ②一人一台端末の更なる効果的な活用に向け、好事例を紹介する機会を設定したり、研修を計画的に実施したりしながら、実践的な活用を推進していく。
		②学校生活全般で一人一台端末を活用し、視覚的支援の充実を図るとともに、情報モラルの教育にも取り組み、個々の資質・能力の育成を図る。	②一人一台端末を活用した授業づくりを進めるために、機器に関する情報共有や研修体制を整える。 情報モラルに関する指導を充実させ、ICTの積極的な活用を図る。	②一人一台端末に関する情報共有や研修体制を整え、ICTの積極的な活用を図ることができたか。 情報モラルに関する指導を充実させ、ICTの積極的な活用を図ることができたか。	②一人一台端末の活用は浸透しつつあり、個々の実態に応じた教科の学習アプリを用いた個別的な指導や授業支援アプリや電子黒板を活用し協働的な授業実践を行うことができた。	②一人一台端末の活用や電子黒板、デジタル教科書等、導入に対して職員の研修会を設定する等、ICT機器の積極的な活用を図っていく必要がある。	②保護者アンケート肯定的評価 90.0% R5年度 78.6% <学校運営協議会> ・ICT機器の活用、ロイロノートやデジタル教科書等、成果を上げている。このような取り組みは評価できる。	②各学部で実態や学習状況に応じて、一人一台端末を活用することで、主体的な学びにつなげ、成果を上げてきている。導入した授業支援アプリやデジタル教科書の効果的な活用が更に求められる。	②一人一台端末の更なる効果的な活用に向け、好事例を紹介する機会を設定したり、研修を計画的に実施したりしながら、実践的な活用を推進していく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	○それぞれの実態を十分把握し、ニーズに応じた指導・支援を行うとともに、集団活動を通して、協調性や思いやりの心を養い、自己肯定感を高める。	①配慮の必要な幼児・児童・生徒の健康と安全を守るとともに、一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。 校内で起こる様々な事案に対し、機動的な対応で解決を目指す。 ②個別の指導と様々な集団活動を通して、互いの良さを認め合う機会を持ち、自己理解や自己肯定感を高める。	①関係職員とケース会を設定して情報共有を図り、見立てや具体的な支援策の検討を行い、実行する。併せて効果の検証を行う。 事案が生じた際は関係部署が連携して、速やかに適切な対応により解決に導くことができた。 ②学部学年を越えた集団活動や部活動（文化的活動・体育的活動）を通して自己肯定感を育み、協調性や社会性を養う。	①指導上必要な配慮を行い、健康と安全を守ることができたか。また、適切な支援を行うことができたかを具体的な成果から検証する。 事案が生じた際は関係部署が連携して、速やかに適切な対応により解決に導くことができた。 ②集団活動を通して、互いの良さを認め合い、自己肯定感を高めることができたかを行動変容等から検証を行う。	①「いじめ」をテーマに生徒同士がワークを行い、いじめ防止の意識を高めることができた。 いじめアンケートを年2回実施し、保護者とも連携していじめの把握と未然防止に努めた。	①今後もいじめアンケートや児童・生徒とのコミュニケーションを図りまた保護者面談等の機会を通じて、いじめの未然防止、早期発見に努めていく必要がある。	①保護者アンケート肯定的評価 88.1% R5年度 90.3% 引き続き、外部講師の派遣等、関係各所と連携して取り組んでいく必要がある。	①いじめ防止では、生徒会主催のワークやいじめアンケート等、未然防止に努め、組織的に取り組むことができた。 ケース会を設ける際は、学級担任をはじめ、養護教諭やブロック内の専門職を含めたチームで検討することができた。	①今後も子どもたちの中に「いじめは認めない」という心を育むよう、主体的に考える場面を設定していく。 幼児・児童・生徒の情報は、学年や学部間等、必要な範囲で共有し問題の未然防止、早期発見に努めていく。
					②高等部生徒会が中心となって、学部を越えた交流給食や昼休みに一緒に活動する集団活動を通して思いやりを育むことができた。	②幼稚部から高等部まで交流ができるというう学校の利点を生かして、児童会・生徒会を中心に、学校行事等に積極的に関わり、協調性や思いやりの心を育んでいく。	②保護者アンケート肯定的評価 95.2% R5年度 90.3%	②生徒会が進めた交流給食や各学部の実行委員が中心となって進めた「平ろう祭」等の行事を通して、相互理解を深めることができた。今後、更に子どもたちの主体的な取組として集団活動の場を広げていく。	②引き続き、幼稚部から高等部まで、校内の縦つながりを大切にした集団活動を進めいくことと、地域の学校や団体等との活動を通して、互いの良さを認め、相互理解を深める活動を推進していく。
3 進路指導・支援	○幼児・児童・生徒・保護者のニーズを受け止め、職業観を育み、主体的な進路選択ができる力を	①幼稚部から高等部の各段階において、個のニーズに合わせた課題設定や体験的な学習を通して、主体的に進路選択できる力を	①各学部の活動に将来の進路選択につながる具体的な視点を取り入れ、教育内容や指導方法の充実を図る。 高等部においては、地域の企業や大学等と連携し、見学や実習を行う。また、卒	①各学部の活動に将来の進路選択につながる具体的な視点を取り入れ、教育内容や指導方法を充実させることができた。 適切な職業観や進路に対して具体的にイメージを持たせることができた。	①各学部所属の進路担当教員を中心に、学級担任と情報を共有し、企業見学や現場実習を実施した。また卒業生との懇談を実施し、働くことに対して具体的にイメージを持たせることができた。	①各学部のニーズ、児童・生徒のニーズや実態に合った進路選択につなげていく。	①保護者アンケート肯定的評価 92.1% R5年度 83.3% <学校運営協議会> ・将来自立する人材を育てるために社会に出てからの自分が役立つ	①各学部の進路担当と担任が綿密に情報共有を図り、学部・学年の実態に合った校外学習や現場実習を計画し実施することができた。 卒業生との懇談では、生徒たちにとって身近な先輩からの話を聞き、自分の将来像につなげること	①今後も、生徒が実習等の体験を通じて自己理解を深め、主体的な進路選択につながるよう、支援を継続していく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月25日実施)	総合評価(3月5日実施)		
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		きるよう指導・支援する。	育む。	業生など聴覚障害のある社会人と接する機会を設定することにより、意欲と心構え育て、それぞれに必要な支援を行う。 ②進路選択に必要な情報を提供するとともに、ニーズに応じた適切な支援を行う。	きたか。また、個のニーズに応じた支援を行うことができたか。 ②進路選択をしていく上で、必要な情報を適切に提供することができたか。	きた。	②進路だよりでは、企業からのアドバイスや家庭に協力してもらいたいことを具体的に掲載し、情報提供を行った。 企業説明会では保護者がオンラインで視聴できるようにしたこと、多くの保護者が参加し、理解を深めてもらうことができた。	②就労支援センター等、関係機関や県内ろう学校4校の進路担当とも連携を深め、より良い情報提供に向けての方策を検討していく。	仕事に就ける教育、子育てが必要と思う。	ができた。 ②ニーズに合った丁寧な情報発信を継続してきたことで、肯定的な評価をいただいた。 保護者や教員向けの企業見学会を実施し、進路選択に参考となる情報を発信できた。	②児童・生徒及び保護者にわかりやすい情報発信の工夫を行っていく。また幼稚部や小学部の段階から、保護者が卒業後の進路を意識できるよう、班員だけでなく担任も進路についての知識を身に付け、情報を発信できるようにする。
4	地域等との協働	○「ともに生きる社会」の実現に向け、地域における支援教育に関する専門性の向上を図るとともに、地域との協働による活動を進めます。	①関係機関との連携を図り、ニーズに応じた相談支援を推進する。 ②切れ目のない支援体制の構築に向けて、地域の支援力向上のための情報発信や支援を充実させる。 ③交流及び共同学習、その他、様々な場面を通じて学校外の人と活動することにより、人との関わりを広げる。	①病院や福祉機関との情報交換を計画的に行い、支援ニーズの把握と支援策の見直しを行う。 ②地域で学ぶろう難聴児の指導と支援の充実につながる情報発信や支援を行う。 ③よりよい交流および共同学習のあり方を交流先と十分に検討し、実践する。また地域からのオファーと校内のニーズをつなげ、地域の人と一緒に活動する機会を増やす。そのことにより、子どもたちの人と関わる力の向上につなげることができた。	①関係機関と計画的に連携し、ニーズに応じた相談支援と支援策を見直しを行うことができる。 ②地域で学ぶろう難聴児の指導と支援の充実につながる情報発信や支援を行うことができた。 ③各学部の実態やねらいに合った、よりよい交流及び共同学習のあり方を交流先と十分に検討し、計画的に実施することができた。様々な活動を通して、子どもたちの人と関わる力の向上につなげることができた。	①病院連携は、学部や担任と連携して進めることができた。 乳幼児相談を中心とした情報について、平塚盲学校や相模原中央支援学校、聴覚障害者福祉センター等と共有することができた。 ②「ろう難聴児サポートハンドブック」を改訂し、指導と支援の充実につながる情報をまとめることができた。 ③各学部の実態やねらいに合った、よりよい交流及び共同学習のあり方を交流先と十分に検討し、計画的に実施することができた。様々な活動を通して、子どもたちの人と関わる力の向上につなげることができた。	①病院連携における学内の情報共有の方法として、負担なく取り組める方法を取り入れていく。 他校との情報共有は継続して行っていく。 ②必要な情報にアクセスしやすいように学校ホームページの改善を図る。 ③子どもたちに身に付けてさせたい力やねらいを明確にして、交流や共同学習できる機会を確保していく。	①②保護者アンケート肯定的評価 87.8% R5年度 80.0%<学校運営協議会> ・見せ方の工夫をする。視覚情報を提示する。 ・全般的な流れの説明をする。	①病院連携は、計画的に進め、ニーズの把握や支援策の共有を図ることができたが、資料づくりの負担感を軽減していくことが課題である。 ②各市町村教育委員会とも連携して、地域で学ぶろう難聴児の指導と支援の充実にむけた情報を発信し、支援の充実に寄与することができた。 ③地域の近隣学校や団体との交流を計画的に実施し、学校外の様々な人と関わることで、コミュニケーション力の向上につなげられた。	①病院連携における学校内の情報共有の方法として、負担なく取り組める方法を工夫していく。 引き続き、乳幼児相談を中心とした情報について、他校と情報共有していく。 ②更に地域への情報発信を充実させるため、学校ホームページの改善を図っていく。 ③各学部のニーズを把握し、子どもたちに身に付けてさせたい力を明確にして、学校外の人たちと交流及び共同学習する機会を設定していく。	
5	学校管理 学校運営	○安全で安心できる指導・管理体制の整備を進め、学校の危機管理能力を高める。 ○教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。	①保護者との連絡体制を含め、非常時を想定した実践的な訓練等の取組を推進する。 ②幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保する方策を検討し、時間を生み出すことで、適切な支援につなげる。	①「マチコミメール」を効果的に活用して情報発信するとともに、実効性のある緊急対応訓練を行い、より効果的なものとする。突発的な事案に的確に対応し、必要な情報の発信を行う。 ②Teams等を活用して資料を提示するなどの工夫を行い、ペーパーレス化、会議の効率化を目指す。また、さらなる業務改革の検討を行う。	①非常時を想定した体験的で実効性のある取組を推進することができた。事案に対応した必要な情報の発信を行うことができた。 ②会議時間を短縮し、幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保することができた。また、そのことにより適切な支援につなげることができた。	①実際の災害発生時を想定した訓練を実施することができた。 マチコミメール登録は100%にすることができた。 ②会計業務や消毒・清掃、事務的な業務を業務アシスタントに依頼することで、教員の負担を軽減できている。 スクールバス業務は、盲学校と密に情報交換を行い、適切に遂行できた。	①情報伝達設備を整備し、発災時の情報保障に努める。 マチコミメール登録100%を継続し情報発信体制を維持していく。 ②会計業務をはじめ、業務アシスタントに買ってもらうことで、負担軽減ができる。今後も引き続き協力をお願いしていく。	①保護者アンケート肯定的評価 73.8% R5年度 80.6%<学校運営協議会> ・頑張っていることをもっと自慢げに発信して良いと思う。 ②保護者アンケート肯定的評価 95.2% R5年度 96.4%	①発災時の様々な状況を想定した実効的な訓練を実施することができたが、肯定的評価は下がった。学校での取組について、更に発信していく必要がある。 マチコミメール登録は100%にすることができた。 ②業務アシスタントや業務センターの力を借りて、会計業務等の学級事務や教材制作を買ってもらうことで、教員の負担を軽減することができた。	①消防署員等のアドバイスを参考にしながら、避難時の注意事項の見直しや訓練内容の改善を図り、より実効的な訓練を通じて危機対応力を高めていく。 ②新しいことへの取組と広げすぎず統合や廃止していくスクラップアンドビルトに取り組んでいく。	